

社協を友に地域づくりしよう!

～地域と社協が一緒にできること～

稲沢市
社会福祉協議会

みなさんこんにちは!稲沢市社会福祉協議会(以下、社協)地域づくり担当の鷲見(すみ)です!

私たち社協では、地域づくりのことを“縁づくり”と呼んでいて、人と人をつないでいくことで形作られるネットワーク(ご縁)を元に、地域課題解決の仕組みをつくっていくことを、地域の皆さんと一緒に考えて、様々な方法でサポートさせてもらっています。主役はあくまで地域の皆さんです!

今回は、地域の取り組みを応援する為に新設した「共助チャレンジ助成事業」を活用し、活動している「COCOWA(ここわ)」メンバーとの対談を通じて、その取り組みをご紹介します!

「ここはどう?」子育ての孤独をなくす、新しい“共助”の形。稲沢市で始まった親子のサードプレイス

コロナ禍を経て働き方や暮らしが変化する中、地域での「人とのつながり」の重要性が改めて注目されています。特に子育て世代の悩みは複雑化し、従来のコミュニティだけでは支えきれないケースも増えています。

こうした状況の中、本市で新たに始まったのが、社協の「共助チャレンジ助成事業」の助成対象第1号として誕生した親子のサードプレイス COCOWAです。子どもの不登校や発達に悩む家庭を中心に、誰もが気軽に悩みを話し、安心して過ごせる居場所づくりを目指しています。

今回は、COCOWAを立ち上げた粟井しのぶさん、スタッフの櫻井美由紀さん、そしてこの取り組みを支える社協の担当者が、活動に込めた思いや地域共助の可能性について語り合いました。地域の未来を考える皆さんにとって、ヒントとなる対話をお届けします。

01 | 「誰にも話せない」悩みを抱える親御さんたちへ。

〈鷲見〉共助チャレンジ助成事業の第1号採択、おめでとうございます。まず、COCOWAを立ち上げた原点について教えてください。

〈粟井さん〉ありがとうございます。きっかけは、本当にシンプルで、「お母さんが安心して悩みを話せる場所がほしい」という思いでした。不登校や発達の悩みはとてもデリケートで、ママ友がいても本音を言えないことが多いんです。話してみたら理解されず、かえって傷ついてしまうこともあります。そうして距離を置き、孤立してしまうかたをたくさん見きました。



お母さんが安心を

持ち帰れるような

居場所をつくりたい

粟井 しのぶさん | COCOWA 代表

親の会に参加しても、子どもを連れて行けなかったり、母子分離が前提だったりして、参加できないかたもいますよね。「親子で一緒に来られて、安心して過ごせる場所がほしい」という声は本当に多かったです。

そうした声を聞くうちに、「それなら自分たちでつくろう」と思うようになりました。COCOWAは、まさに当事者の声から生まれた場所なんです。

『助けて』と

素直に言える

関係性を築きたい

櫻井 美由紀さん | COCOWA スタッフ

02 | 親と子が“選べる”空間設計。名前に込めた願い

〈鷲見〉COCOWAの大きな特徴は、親子で来られることです。空間づくりの工夫を教えてください。

〈粟井さん〉1階は子ども、2階は保護者のスペースに分けています。お母さんのすぐそばに子どもがいると、話せる内容が限られてしまいますから。2階はレトロ喫茶のような落ち着いた雰囲気があるので、話しやすい空間づくりを大切にしています。

COCOWAという名前には、「今日、ここはどう?」と気軽に選べる場所でありたいという願いを込めました。

〈粟井さん〉子どもの気分は日によって違います。COCOWAが合う日もあれば、別の居場所が合う日も。地域には素敵な団体がたくさんあります。その中の“ひとつの選択肢”でありたいんです。

03 | 実践で見えた手応え。つながりが広がり、安心が生まれる

〈鷲見〉活動を始めて、どんな手応えを感じていますか。

〈粟井さん〉月1回、経験者や専門家をゲストに迎えています。不登校を経験した先輩ママ、支援団体の代表、コミュニケーションの専門家など、私たちだけでは届けられない視点を提供していただきます。